

## プログラム科目小児外科

### 診療部長

米倉竹夫 教授

### 常勤医

- 米倉竹夫 教授
- 石井智浩 准教授
- 山内勝治 診療講師
- 高間勇一 診療講師
- 木村浩基 診療講師
- 梅田 聡 診療講師

### 非常勤医師

- 島田憲次（福知山医療センター小児泌尿器科部長）
- 奥山宏臣（大阪大学小児外科）
- 保木 昌徳（大阪樟蔭女子大学、大学院人間科学研究科人間栄養学教授）

### 診療実績

1. 診察、治療内容
  - 心臓外科・脳神経外科・整形外科を除いた、新生児、消化器、呼吸器、泌尿器、一般小児外科診療の他、キャリアオーバーの症例に対する治療、さらには重症心身障害児（者）に対する QOL の改善を目指した手術も行っています。鏡視下手術も積極的に取り組んでいます。また新生児疾患の胎児期からの診断・治療戦略構築などを目的に胎児診断も行っています。一方奈良県からの小児救急医療の依頼を受け、24 時間 365 日対応しています。米倉教授は当院 NST の委員長として NST 回診等を行っています。このように診療対象は年齢（胎児から成人まで）、内容（外科治療、小児救急、栄養）のいずれにおいても幅広く、新生児から成人まで” generalist かつ specialist” として活動しています。
  - 【診療疾患】
    - 腹部疾患
      - 消化管閉鎖症（十二指腸、小腸閉鎖、直腸肛門奇形）、胆道閉鎖症、胆道拡張症、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、腸回転異常、壊死性腸炎、新生児腸穿孔、ヒ

ルシユスプルング病、虫垂炎、鼠径ヘルニア、尿膜管遺残症、臍帯ヘルニア、腹壁破裂 など。

- 胸部疾患
  - 食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、漏斗胸・鳩胸、嚢胞性肺疾患、気管・気管支狭窄症、肺分画症 など
- 泌尿器疾患
  - 停留精巣、陰嚢水腫、包茎、精巣静脈瘤、清掃捻転症を含む急性陰嚢症、腎盂尿管移行部狭窄症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、水腎症、尿道弁狭窄などを対象。
- 体表疾患
  - 鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、副耳・耳前瘻、舌小帯短縮症、先天性頸部瘻孔、体表リンパ管腫 など。
- 小児悪性固形腫瘍
  - 神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、副腎腫瘍、Ewing 肉腫ファミリー腫瘍、腭芽腫、肺芽腫など。外科治療のみならず化学療法や骨髄移植の治療を行っている。
- 鏡視下手術
  - 全手術症例の約 3 割を占める。気胸、嚢胞性肺疾患、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、横隔膜弛緩症・横隔膜ヘルニア、胃食道逆流症、食道アカラシア、胃軸捻転、胃瘻造設、ヒルシユスプルング病、鎖肛、卵巣嚢腫、鼠径ヘルニア、悪性腫瘍などに施行。
- 胎児診断・治療
  - すべての胎児疾患症例（器質的異常の診断と胸腹水ドレナージ・シャントなどの胎児治療を含む周産期管理）。500 例の胎児形態異常を診断し、5 例に胎児治療を施行
- 小児救急疾患
  - 高エネルギー外傷、熱傷、急性呼吸不全、急性腎不全、重症肺炎などの小児 3 次救急疾患のほか、急性虫垂炎、腸重積、異物誤嚥・誤飲など小児救急一般。
- 重症心身障害児（者）疾患
  - 胃食道逆流症、胃瘻造設、気管切開、喉頭気管分離術、胸郭入口部形成術
- NST 活動
  - 院内の NST 回診や診療を行っている（NST 委員長；米倉 竹夫）

## 2. 年間診療実績（過去 5 年間の実績から）

- 入院患者数：400～500 名
- 入院新生児数：20～30 名
- 全手術件数：250～300 件
- 鏡視下手術件数：60～110 件

- 新生児手術症例：10～20 件

## 認定施設

- 日本外科学会認定施設
- 日本小児外科学会認定施設
- 日本静脈経腸栄養学会認定 NST

## 勤務状況

- 手術：月曜日・水曜日・金曜日
- 定期外来：火曜日、木曜日、土曜日（その他の曜日にも新患など随時）
- 胎児診断外来：水曜日
- 消化管機能検査、消化管・泌尿器造影検査：水曜日
- 症例検討会、小児科との合同カンファレンス、産科・小児科との合同周産期カンファレンス：金曜日
- CPC（病院全体として）：土曜日（月1回）
- 他は、主に病棟患者管理

## 大学院生の臨床業務

近畿大学医学部本院に在籍し、博士号取得が可能な状態であれば臨床業務は可能

## 入局後の進路選択

近畿大学奈良病院小児外科での小児外科専門医に関わるカリキュラムは、2年間の卒後初期研修後、外科専門医制度による認定（外科専門医）に必要な一般目標および到達目標を充たすとともに、さらに専門化された小児外科専門医としてのサブスペシャリティの資格習得を充足できることを目的とした修練カリキュラムです（詳細を知りたい方は連絡ください）。具体的には、まず近畿大学奈良病院またはその他研修協力施設で外科研修を受け外科学会専門医の取得に必要な外科研修を終了された方（研修先は責任を持って対応します）、または他の大学や研修施設で外科研修を終了された方が、近畿大学奈良病院小児外科で臨床助手として研修（臨床、学会・論文報告）をうけていただき、研修終了時（約3年）には小児外科専門医の資格の習得が可能となります。

## 当科における業績

研究テーマ・実績

胎児診断症例の周産期管理、小児鏡視下手術の適応拡大、侵襲時の外科代謝栄養学、小児悪性固形腫瘍の集学的治療、小児泌尿器外科疾患の病態と予後、小児救急に対する小児外科の役割、重症心身障碍児（者）に対する QOL の向上を目指した手術、小児外科栄養管理や侵襲時の代謝などの研究

---

## 外勤について

週 1 回の日勤勤務および週 1 回の外病院での当直

## 診療部長抱負

一般的に小児医療は、小児という特殊性から、その専門性が強く求められています。小児医療の中でも小児外科という診療科の認知度はまだ高いとはいえません。しかしその専門性は非常に高く、小児外科医になるためには、成人の外科に従事しその専門資格を得た上で、さらに小児医療の専門医として小児外科診療に従事しています。すなわち小児外科医とは外科専門医としてのスペシャリティーと小児専門医としてのスペシャリティーを併せもっている職種です。このような背景のもと、平成 17 年度より小児 3 次救急を近畿大学医学部奈良病院小児外科が行うことが奈良県として決定いたしました。小児救急のなかでも小児専門の 3 次救急はまだこの県でも対応が充分とはいええず、これを小児外科が担当とすることは全国で始めてのことです。

多くの小児外科専門医が生まれてくることが望まれております。小児外科専門医は全国的に不足しており、当院に対しても他施設から小児外科専門医の派遣の依頼を受けておりますが対応できていない状況です。近畿大学医学部奈良病院小児外科で研修をうけ小児外科専門医となった先生方が、日本の小児外科を必要とする患児に対し、さらには世界中の患児に対し、医療を提供することができるようになればと願っております。

## 専門研修連携施設

近畿大学外科、大阪大学小児外科、大阪母子医療センター小児外科、大阪市立総合医療センター小児外科